

被災公文書救助・復旧活動への支援について

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
調査・研究委員会委員 林 貴史

全史料協とは

全史料協は「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の略称です。

発足は1976年(昭和51年)。1988年の公文書館法施行を契機に、遅れていたわが国の文書館運動が本格的に進展しはじめましたが、このなかにあつて全史料協は、文書記録を中心とする記録史料を保存し、利用に供している機関会員と、この会の目的に賛同して入会した個人会員で構成する全国団体です。

全史料協は会員相互の連絡と連携をはかり、研究協議を通じて記録史料の保存利用活動の振興に寄与することを目的としています。

機関会員には、文書館、公文書館、図書館、歴史資料館、自治体史編さん室、および大学資料室等が加盟しています。個人会員は、史料を保存し利用に供する仕事に携わる方々です。

全史料協は、文書館関係機関の世界的団体である国際文書館評議会(ICA)およびその東アジア地域支部(EASTICA)に加盟し、国際交流にも努めています。

調査・研究委員会の災害発生時の取り組み

第1段階 被害状況の確認と情報収集

第2段階 被災地支援と情報発信
初期安定化資材の提供
技術指導、資機材の提供
ボランティア募集のための情報発信
活動を継続するための情報提供

過去の公文書救助・復旧活動

東日本大震災における公文書救助・復旧活動

宮城県女川町

群馬県立文書館による救助・復旧活動

岩手県陸前高田市

全史料協・神奈川県立公文書館・法政大学サステイナビリティ研究センターの
協働による救助・復旧活動

岩手県大槌町

遠野市による救助・復旧活動

岩手県釜石市

国文学研究資料館による救助・復旧活動

国立公文書館による被災公文書等修復支援事業

岩手県陸前高田市・山田町・宮古市・大船渡市

宮城県気仙沼市・仙台市・石巻市・女川町

平成27年 関東・東北豪雨 常総市

- 9月10日 鬼怒川堤防決壊
- 11日 市役所本庁舎浸水
- 25日 被災文書レスキュー打ち合わせ
- 30日 被災文書レスキュー活動 開始
- 10月 9日 永年文書庫搬出 完了
- 20日 シルバー人材センター業務委託 開始
- 27日 水損行政文書等復元計画策定(市長決裁)
- 18日 凍結文書 発送(3月30日まで3回80箱)
- 7日～ 国立公文書館 被災文書復旧作業研修
- 12月14日 常総市行政文書レスキュー活動緊急報告会(茨城史料ネット)
- 25日 行政資料 エタノール洗浄 終了
- 1月 4日 行政文書保全指導員 委嘱
- 6日 臨時職員 雇用
- 18日 被災行政文書等保全連絡会議 開催
- 2月26日 国立奈良文化財研究所, 元興寺文化財研究所 視察
- 27日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 近畿部会にて報告
- 28日 人と防災未来センター 視察
- 3月 8日 有期限文書庫復旧工事 着工(3月31日竣工)
- 5月 9日 行政資料 乾燥促進作業(開冊,開頁作業) 終了
- 永年文書 ドライクリーニング作業 開始
- 6月6～17日 パネル展「水害からの復興の歩み」 開催
- 7月15日 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会 実務研修会 受入
- 7月25日 原秩序復旧作業(永年文書庫棚配架順への配置) 終了
- 8月 インターンシップ 受入
- 9月 1日 葛飾区郷土と天文の博物館友の会視察 受入

平成29年度の対応 大分県津久見市

大分県公文書館からの情報

「津久見市などで大雨による被害が出ている。一般的な机の中央の引き出しまで浸水した。」

「被災した文書は、階上にあげて、乾燥する処置を取っている。(津久見市は)レスキューを希望している。」

事務局の対応

文化財防災ネットワーク推進室と会長事務局に連絡へ連絡

10月2日～5日の4日間、当委員会委員を津久見市に派遣し、初期対応。

国立公文書館とも情報を共有

11月1日から2日の2日間職員2名を派遣し、ドライクリーニング、乾燥作業、殺菌作業に係る技術指導を実施。

平成30年度の対応 愛媛県西予市

7/23 全史料協へ支援要請。以後の調整は林が担当。

7/24 支援内容の打ち合わせ。8/7～現地指導へ。

8/7. 8 被災現場 視察 救助計画の検討

8/24 救助日程の決定

8/28 作業工程の提案

8/31 全史料協ホームページ掲載用支援要請文決定

9/13 救助活動開始。9/17まで

常総市と茨城県立歴史館の協働による茨城県内への支援

令和元年 台風19号 被災情報

川崎市市民ミュージアムの地下部分水没 (最終更新 10月15日 19時00分) 毎日新聞

台風19号 蔵書9万冊以上が浸水 東京都市大図書館 10月17日 東京新聞 TOKYO Web

宮城 丸森町 役場が浸水 孤立状態の地域も 10月13日 8時22分 NHKニュース

町の機能停止、疲労色濃く＝役場、病院が浸水－茨城・大子町 10/17(木) 13:14 時事通信社

庁舎が浸水 長野 飯山市役所で復旧作業 2019年10月14日 11時38分 NHK NEWS WEB

日本歴史学協会年報 第36号 から

常陸大宮市文書館・茨城史料ネット 高村恵美氏 報告

保全作業の指導・助言

9月23日 茨城県立歴史館・大子町

11月 7日 水戸市消防本部飯富出張所 外1か所

茨城県立歴史館 乾燥作業の技術指導及び資材提供

大子町 現地視察、復旧作業マニュアルの提供、資材提供、その他指導助言

永年保存文書 未被災

有期限保存文書及び現用文書 一部被災

水戸市消防本部飯富出張所 外1か所 乾燥作業の技術指導 復旧作業マニュアルの提供、資材提供等

まとめにかえて

常総市の被災地支援プログラム

被災自治体として受けた支援への感謝を示すもの

被災直後に役立つものばかりではなく、被災経験があるからこそ提供できるもの。

職員提案により広く支援内容を募集。

「被災行政文書復旧ノウハウ・資材の提供・指導員の派遣」をプログラムに。

常総市の行政文書復旧事業の方針

被災行政文書は事務の利便性や市民の財産としてその取扱いを検討する。

現用文書 主管課の必要に応じて検討する。

有期限保存文書 劣化の防止に努め、期限見直し時に検討する。

永年保存文書 閲覧に耐えうる状態に復旧し、永く保存できるように復旧する。

復旧作業に多大な費用等を要するものについては、体制等が整えられるまで耐えうるよう措置を施す。

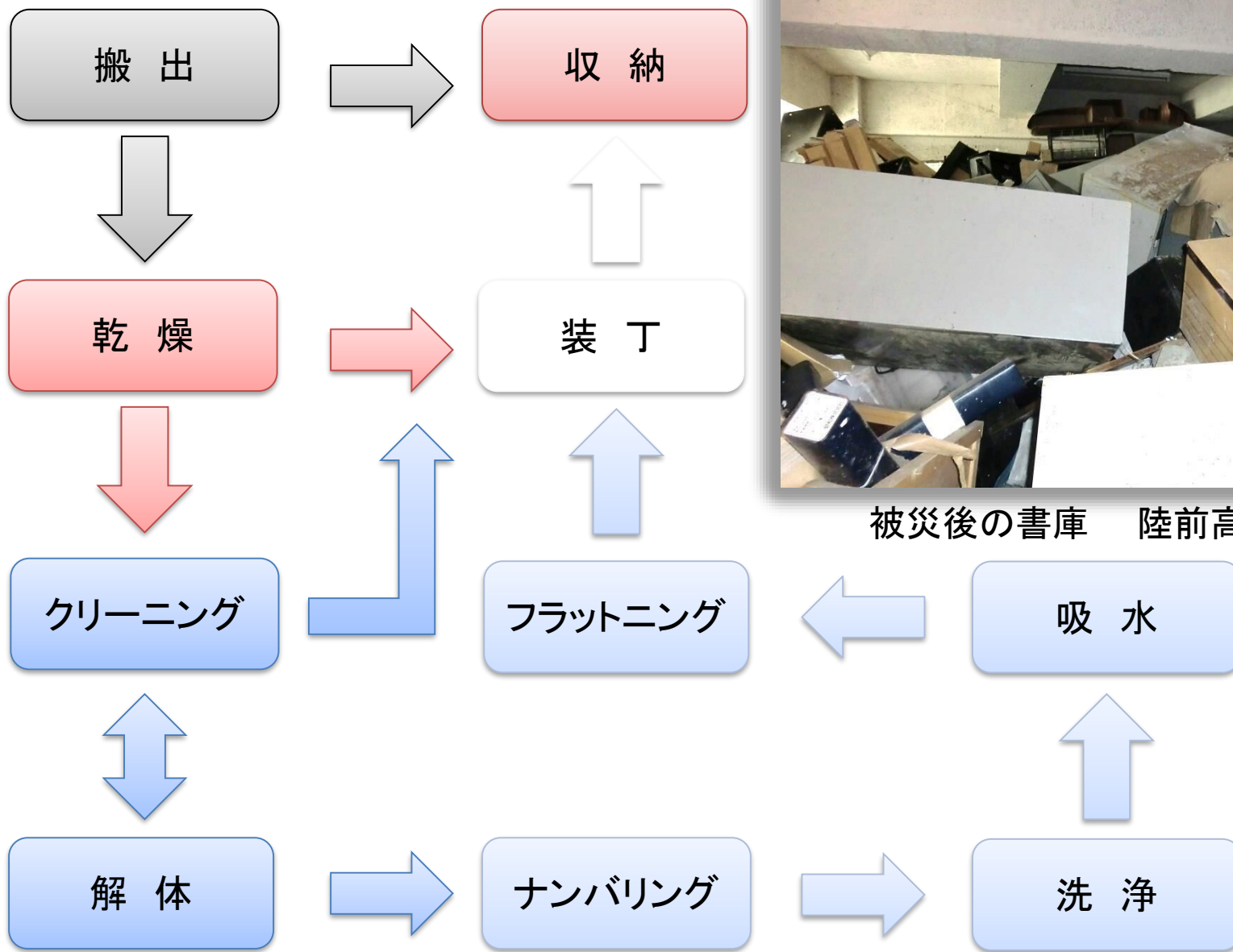
災害時に水損した紙資料の応急処置

－ 乾燥からクリーニングまで －



水損文書の復旧処置の流れ

安定化処理＝劣化要因の除去



被災後の書庫 陸前高田市役所

搬 出

搬出場所の確保 ⇒ 選定基準

面積 = 書庫面積 × 書架段数 × 2

距離 = 移動手段の確保

ライフライン設備の有無

⇒ 処置方法の検討

搬出作業

被災状況の記録 ⇒ 写真撮影等

収蔵位置の特定 ⇒ 被災状況ごとに仕分

初期安定化処置方法の決定

自然乾燥・エタノール洗浄・冷凍保管・真空凍結乾燥

未被災文書の取扱

紙に含まれる水分量が高い。

カビ等の菌類の繁殖 ⇒ 経過観察



永年文書庫からの搬出 常総市役所



搬出先での仕分作業 常総市役所

乾 燥

自然乾燥

ダンボールで挟む

- ⇒ 平テープで縛る
- ⇒ 立てて平置
- ⇒ 送風機で風を当てる
- ⇒ 開いてカビや乾燥状態を確認

*カビの心配がない水分率 = 9%以下

*乾燥時に生じる歪みの軽減

処置の見直し

文書内部が濡れている

⇒ 文書より一回り大きい吸水紙(新聞紙をキッチンペーパーで挟んだもの)を2～3cmごとに挟む

カビ等の菌類の繁殖が抑制できない

⇒ エタノール洗浄



吸水紙を挟み、文書を縛る 津久見市



処置後の文書 津久見市

乾 燥

エタノール洗浄 (次亜塩素酸ナトリウムで代替可)

カビの繁殖を防ぐために実施する

- ⇒ エタノールを75パーセントに希釈
- ⇒ 文書が収まる容器に入れる
- ⇒ 文書表面のカビを洗い流す
- ⇒ 不織布で包む

* 被災文書が少量の場合 = 噴霧でも可



エタノール洗浄 常総市役所

真空凍結乾燥 (フリーズドライ)

文化財等の保存修復に用いられる

劣化の進行が抑制できないものを対象

- ⇒ 1点ごとにビニール袋やラップで包む
複数文書の一体化を予防
きれいに包むと乾燥しない

⇒ 冷凍庫で凍結

⇒ 真空凍結装置で乾燥

* エタノール濃度が高い?と凍結しない



真空凍結乾燥 常総市役所

乾 燥

作業方法の決定までに猶予ができる方法

冷凍保管

カビの繁殖を防ぐために実施する

真空凍結乾燥へ進まない場合もあり

作業可能な分のみ解凍し、自然乾燥も可



冷凍庫での保管
常総市役所

圧縮パック

真空状態にすることで、カビの繁殖を防ぐ

吸水紙を挿み圧縮することで、乾燥を促進

- ⇒ 1点ごとに吸水紙を挟む
- ⇒ 座布団圧縮パックに入れる
- ⇒ 空気を抜く
- ⇒ 冷暗所に保管



圧縮パックでの
保管
常総市役所

クリーニング

ドライクリーニング

⇒ ほこり、ごみ、カビなどを除去

使用する道具

刷毛、スパチュラ(へら)、クロスなど

クリーニングボックス

ボール紙等で作られたボックス

掃除機(HEPAフィルター)付

＝付着物の飛散防止のため

⇒ おおむね閲覧できる状態へ

乾燥過程で固着有＝慎重に実施



クリーニングボックスと道具 常総市役所



ドライクリーニング 常総市役所

解体

* クリーニングと同時に実施することが多い

⇒ 綴じ紐やファイルをはずす

乾燥促進のため

⇒ クリップやスティプラーなどを取り除く

異なる素材の接触部分＝劣化が甚だしい



破損紙片の保存
常総市役所



解体道具
常総市役所

ナンバリング

⇒ ページに鉛筆で番号を付す

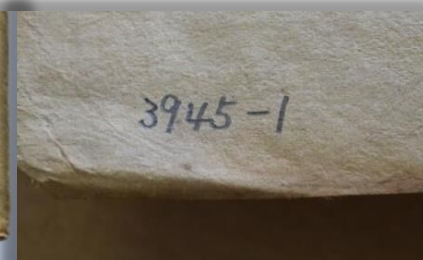
＝ページの散逸や錯誤を防ぐため

連番の記入だけではなく、管理番号を併記

一定のルールを設定

作業者間でルールを共通理解すること

取扱いの誤りを減らすことができる



ナンバリング 常総市役所



ナンバリング
常総市役所

洗 浄

フローティング・ボード法

1966年にフィレンツェを襲ったアルノ川の大洪水で被災をした図書館や文書館の資料等を洗浄修復するために開発

紙そのものを水で洗浄

⇒ ネットで紙を挟む

網戸用の切り分けてもほつれない商品

水分を含んだ紙を保護

⇒ 70%のエタノールを噴霧

⇒ バット(容器)に水道水を入れる

⇒ ボード(白い樹脂板)を浮かべる

⇒ ネットに挟んだ紙をボードに載せる

⇒ 刷毛で汚れを洗い流す

汚れがひどい場合

→ ネットをめくって直接刷毛で洗い流す

東日本大震災に際し、洗浄～吸水～フラットニングをシステム化＝東文救方式



エタノール噴霧 常総市役所



フローティング・ボード法 常総市役所

吸水

ネットに挟んだまま、吸水タオルで吸水
⇒ ネットを外し、不織布で文書を挟む

フラットニング

エア・ストリーム法

- ⇒ 不織布で挟んだ文書を濾紙で挟む
水分を吸収、拡散して乾燥を促進
- ⇒ 段ボールシートで挟む
波型の断面を風が通り、乾燥を促進
- ⇒ 層状に重ね、重しを載せて加重する
しわや折れをなくすることができる
- ⇒ 送風機の風を当てる
乾燥時間＝3～4時間程度
季節や紙質、枚数によって異なる
乾燥の目安＝水分率9%以下



吸水作業 常総市役所



フラットニング 常総市役所

装 丁

⇒ ページの順番を揃え、綴り直す

綴り直しの装具

文化財的価値の高いもの＝被災前の装丁

市販品のファイル等＝統一的な装丁

今後も処置が必要とならば＝簡易な装丁

収 納

書庫

書架

保存箱

被災公文書の複製作成(デジタル化等)



送風機による乾燥 常総市役所



綴り直し作業 常総市役所